

## 平成20年度事業報告

### I. 学術集会, 講演会, シンポジウムの開催

#### (1) 日本心理学会第72回大会

期日：平成20年9月19日—21日

会場：北海道大学高等教育機能開発総合センター

主催校：北海道大学（大会会長：阿部純一教授）

#### (2) 公開シンポジウム：老いを健やかに生きる——高齢社会における心理学の役割——

##### (a) 期日：平成20年10月26日（日）

会場：科学技術館サイエンスホール（東京都）

##### (b) 期日：平成21年 2月 1日（日）

会場：九州大学国際ホール（福岡県）

### II. 学会誌等の刊行

#### (1) 機関誌“心理学研究”第79巻第1号—第6号の刊行

#### (2) 機関誌“Japanese Psychological Research” Vol. 50, No. 2-No. 4 & Vol. 51, No. 1の刊行

#### (3) 会誌“心理学ワールド”第41号—第44号の刊行

### III. 研究業績の表彰と研究の奨励

#### (1) 社団法人日本心理学会優秀論文賞の選考と授与

平成19年度刊行の“心理学研究”および“Japanese Psychological Research”（特集号を除く）掲載の原著論文のうちから選考委員会において授賞論文を決定し、大会時にその授与を行った。

#### <優秀論文賞>

##### (a) 確率による報酬の価値割引——現実場面と仮想場面の比較——

著者：実光由里子（大阪芸術大学）・大河内浩人（大阪教育大学）

掲載：心理学研究第78巻第3号

##### (b) 自然画像における視覚探索中のサッカーボール軌道の湾曲

著者：十河宏行（愛媛大学）・武田裕司（産業技術総合研究所）

掲載：心理学研究第78巻第5号

##### (c) 全体または局所レイアウトの繰り返しにおける文脈手掛かり効果

著者：遠藤信貴（日本学術振興会・産業技術総合研究所）・武田裕司（産業技術総合研究所）

掲載：心理学研究第78巻第6号

##### (d) 幼児の連想的虚偽記憶における意味的知識の発達

著者：鍋田智広・目久田純一・神垣彬子・松井剛太・朴信永・山崎晃（広島大学）

掲載：心理学研究第78巻第6号

##### (e) 動的な変形に対する視触覚間同時性判断

著者：高橋康介（科学技術振興機構 ERATO）・齋木潤（京都大学）

掲載：心理学研究第78巻第6号

##### (f) Independence of sampling of motion parallax and binocular disparity indiscrimination of depth

著者：葉師神玲子（青山学院大学）

掲載：Japanese Psychological Research Vol. 49 No. 4

##### (g) Children's moral judgments of commission and omission based on their understanding of second-order mental states

著者：林 創（岡山大学）

掲載：Japanese Psychological Research Vol. 49 No. 4

- (2) 優秀論文賞受賞者への研究奨励金の授与  
上記7論文に対して、研究奨励金を授与した。

#### IV. 国際的活動の表彰

- (1) 社団法人日本心理学会国際賞の選考  
国際賞選考委員会にて、国際賞授賞者を選考した。

##### <国際賞>

###### 功労賞

祐宗省三（広島大学）

###### 奨励賞

星野崇宏（名古屋大学）

今水 寛（ATR脳情報研究所）

松井三枝（富山大学）

- (2) 国際賞の授与  
第72回大会会員集会にて授与式を行なった。

#### V. 資格の認定

- (1) 日本心理学会認定心理士資格の審査と授与  
平成21年3月31日現在、総件数3,882件を審査し、3,632名を合格、103名を不合格、147名を判断保留とした。  
必要な手続を経て資格を取得した者は3,620名であった。
- (2) 認定心理士研修会
- (a) 第72回大会時に認定心理士向け講演を開催した。  
テーマ：心理職の国資格化の最近の動向と今後のゆくへ  
——どこに問題があるのか——
- (b) 認定心理士向け研修会を拡充するため、認定心理士研修委員会を設置した。
- (3) 認定心理士に準拠した教科書作成委員会（ワーキンググループ）を行った。

#### VI. 公益法人法改正への対応

公益法人制度改革関連三法の施行（平成20年12月1日）に伴い、新公益法人申請について検討した。

#### VII. 学会業務の電子化とその促進

- (1) 機関誌投稿編集業務の電子化  
投稿・編集電子化システムによる論文の投稿受付を行なった。
- (2) その他の学会業務の電子化  
会員へのEメールによる学会情報の配信を行なった。

#### VIII. 関連学術団体等との連絡および協力

- (1) 国際心理科学連合（IUPsyS）  
分担金を支払った。
- (2) 国際テスト委員会（ITC）  
分担金を支払った。

(3) 日本心理学諸学会連合

本会から3名、理事として参加している。  
会費および認定心理士承認料を支払った。

(4) 日本認定心理士会

日本認定心理士会事務局を日本心理学会事務局から分離した。  
協力金を支払った。

IX. 本会の目的を達成するために必要なその他の事業

(1) 各種委員会の開催

常置委員会にて所管事項を審議した。

(2) 研究集会等への支援

11件の研究集会を助成した。

(3) 会員名簿の改訂ならびに発行

平成20年12月に“日本心理学会会員名簿2008”を発行した。

(4) 代議員・理事選挙の実施

平成21年2月に代議員選挙を、平成21年3月に理事選挙を実施した。

(5) その他

以上